

教育支援部だより

R7.9 第46号

今年度は「支援のつながりを、さらに深く。」

☆ つぼみ相談のご案内 ☆

地域の保護者や学校関係者の皆さんが抱える、障害のある幼児・児童・生徒の子育て、支援や指導法についての悩みに対して、情報を提供したり一緒に考えたりする相談活動を行っています。



【相談事例紹介】・医療的ケア（胃ろう等）のある児童の指導方法全般についての相談。

- ・肢体不自由学級の教育課程や学習支援の方法についての相談。
 - ・高校の通級支援の学習支援、内容についての相談。等々
- 悩みをお聞きし、支援や指導法について助言し、継続して相談にのっています。

相談支援・研修調査について ～7月までの集計、事例についての紹介～

本校では、今年度海部地区 20 校を巡回相談・支援指導検討会という形で教育支援部職員が訪問しています。5月末から巡回相談が始まり、7月までの現状報告をします。現在 14 件実施しており、つぼみ相談は 2 件、一宮市巡回 2 件、海部地区の支援指導検討会・巡回相談 10 件になります。主な相談は、肢体、知的、発達障害のある児童生徒に対する学習、行動、対人関係上の支援になります。

分類	相談内容
学習上の支援	話や指示が伝わっていないと感じる（学習は、どこから何をするとよいか） 毎回異なる授業の中での指示が通るようにするためにはどうしたらよいか 学習への促し方や授業でやりたくないときの対応方法
行動上の支援	気持ちのコントロールに有効な支援の仕方、パニックにならないための効果的な支援方法 離席・自由発言と声の大きさ・衝動的な他害等
対人関係上の支援	他人との関わりの中でトラブルが多い、どのような指導・支援をしていくとよいか 暗黙の了解やルールの定着方法の教え方
その他	自立活動をどのようにしていくとよいか。

上記の表から、通常・特別支援学級担任の先生方の困り感が多いことが分かります。同様に、児童生徒の困り感も多いのではと考えられます。それは、「ユニバーサルデザインの視点による授業づくりをしている学校が少ないこと」「児童生徒の支援・指導方法が校内・授業内で情報共有されていないこと」が挙げられます。また、「担任が積み上げているところをしっかりとくみ取った上で、指導の先のヒントになるような話が聞けて良かった」「先生の資料を読みながら、私自身できていることと今後取り組めそうなことを確認することができました」と相談者からの声をいただいています。

これからの巡回相談でも、教育支援部全員で各学校の先生方の困り感を把握し、先生方が自信をもって、児童生徒の支援・指導に当たることができるようにしていきたいと思えます。